



高原鉄道らしさを残す駅

自然林に囲まれて、静かにたたずむ無人駅

小淵沢を出て小海線に入りまもなくすると右急カーブにさしかかります。このカーブは鉄道の限界に近い半径200m。当初、甲斐小泉駅と中央線の富士見駅を結ぶ計画だった線路は、富士見までの起伏の激しい地形と、地元山梨の強力な誘致運動のため急ぎよ小淵沢駅に曲げられたといういきさつがあったようです。

そんなカーブを過ぎると、車窓左側には列車の進行と共に微妙に姿を変える八ヶ岳、右側には甲府盆地の向こう側にボツカリ浮かぶ富士山を望み、小さな無人駅「甲斐小泉」に至ります。リゾート地八ヶ岳高原の入り口甲斐小泉駅は、自由に出入りできる、高原鉄道らしさが最も色濃く残されている、なんとなく懐かしい駅です。

甲斐往来

第二回 甲斐小泉駅

■ シリーズ山梨の駅

緑

の森の下の方から、長い警笛の音と共に単線の線路に列車が姿を現しました。甲斐小泉駅の上りホーム（小淵沢方面行き）から、下りホーム（小諸方面行き）に渡るためには一旦線路まで降りることになります。この位置から見た小淵沢方面に続く線路は、森の間にまっすぐにのびながら下の方に消えていくという、ちよつとドラマチックな光景です（上の大きな写真。標高1044m。甲斐小泉駅はJRの中で六番目に高い所にある駅。ちなみに最も高いのは野辺山駅（1345・67m）。山梨の小淵沢から長野の小諸までを結ぶ78・9kmの小海線は、JRの駅標高トップ9までを有する高原鉄道です。

甲斐小泉駅がある長坂町は、武田の時代約400年間、信玄の信濃制圧の要衝の地でした。それは現在の甲斐小泉駅を中心に広がる雄大な三里ヶ原にある古戦場跡・上・中・下の棒道、大井ヶ森関所跡・小荒間番所跡などから知ることができます。現在の駅周辺は、商店などはなく白樺の自然林に囲まれた静かなたたずまいを見せています。

甲斐小泉駅がある長坂町は、武田の時代約400年間、信玄の信濃制圧の要衝の地でした。それは現在の甲斐小泉駅を中心に広がる雄大な三里ヶ原にある古戦場跡・上・中・下の棒道、大井ヶ森関所跡・小荒間番所跡などから知ることができます。現在の駅周辺は、商店などはなく白樺の自然林に囲まれた静かなたたずまいを見せています。



contents

- 1 シリーズ山梨の駅 甲斐往来:「第2回 甲斐小泉駅」
- 2 特集 観光立県 富士の国やまなし
- 10 特集 県職員の数と給与
- 12 山梨の旧道を訪ねて「三富村／雁坂みち」
- 14 甲斐のひと、インタビュー「山本 久 さん」
- 16 地球と遊ぼう「Vol.2 水を考えよう」
- 18 山梨の食材再発見 医食同源「柿」
- 20 知って役立つ暮らしの情報 「レファレンスサービス・眠りは百薬の長」
- 21 やまのくに 山の花「エゾリンドウ」



【表紙の写真】

厄除地藏尊で有名な、甲府市湯村の塩澤寺にある石仏。境内裏の墓地内にあり、自然石の上に頭だけを乗せた石仏はとてもユニークな顔をして鎮座している。古くから「たんきりまっちゃん」と呼ばれて親しまれているが、残念ながら名前由来は定かではない。江戸時代のころからここに置かれていたということである。

山梨県甲府市湯村3丁目17-2